

ひと・みず・みどり

歴史と文化が織りなす交流のまち



京丹後市



左上) 久美浜湾

右上) 丹後松島

左下) 丹後立岩

右下) 琴引浜(鳴き砂)



京丹後市の概要

京丹後市は、京都府の最北端に位置し、北は日本海、東は伊根町、南は与謝野町、東は兵庫県豊岡市に接しており、京都市からは鉄道でも自動車でも約2時間30分の距離にあります。

京丹後市は、平成16年に6つの町が合併して誕生した市であり、面積は501.84平方kmの広大な市域があります。市の南部に位置する山々から河川が日本海へ流れ込み、流域に田園が形成されるとともに、海岸線は、西は山陰海岸国立公園と東は丹後天橋立大江山国定公園に指定された風向明媚な自然にあふれる環境ゆたかな市です。

京丹後市経ヶ岬から兵庫県、鳥取砂丘を含む鳥取県白兔海岸までは、地殻変動や火山活動、海蝕による貴重な海岸線であり「山陰海岸ジオパーク」として、22年10月に世界ジオパークの認定を受けることができました。



京丹後市国保の概況

京丹後市の国保は、21年度末実績で見ますと、被保険者は20,508人（加入率33.3%）、世帯数は10,575世帯（加入率47.8%）です。

21年度国保財政の状況は、歳入73億1,822万円、歳出71億9,493万円、差引残高1億2,329万円と形式的には黒字決算を計上しましたが、国保事業基金から4億5,000万円を繰り入れるなど、非常に厳しい財政状況となっています。

このため、22年3月議会において、景気低迷による経済情勢が厳しいなかですが、合併以来初めとなる保険税の改正の議決をいただいたところです。

国保被保険者の動向 (各年度末数値 単位：世帯、人、%)

年度	世帯			人口		
	市全体	国保	加入率%	市全体	国保	加入率%
19	21,967	13,964	63.6%	62,828	29,052	46.2%
20	22,086	10,743	48.6%	62,172	21,026	33.8%
21	22,141	10,575	47.8%	61,592	20,508	33.3%

※ 19年度は、老人保健を含みます。

1人当たり医療費 (単位：円)

年度	一般	退職	全体
19	203,008	384,873	237,972
20	242,265	344,045	249,186
21	263,360	294,573	265,347

※ 年間総費用額（入院・外来・歯科）÷年間平均被保険者数

※ ※19年度は老健を含まない。

1人・1世帯当たり保険料調定額 (単位：円)

年度	医療分		支援金分		介護分	
	1人	1世帯	1人	1世帯	1人	1世帯
19	56,439	118,201	—	—	5,957	12,475
20	46,835	92,126	13,165	25,896	7,945	15,628
21	45,908	89,472	12,939	25,218	7,725	15,055

※ 現年度分調定額÷年度平均被保険者数・世帯数

※ ※一般と退職の合計

国保の事業運営

京丹後市国保を安定的に運営するために、京丹後市では次のことを重点に事業運営を行っています。

- 1 被保険者資格の適正化
- 2 保険税の適正な賦課と収納率の向上
- 3 レセプト点検と医療費分析の充実
- 4 特定健診・特定保健指導の受診率向上
- 5 健康づくり事業の推進

1 被保険者資格の適正化

受付時、所得調査時、被保険者証更新時等あらゆる機会を通して適正化を図るとともに、「擬制世帯リスト」を点検して、未適用者・重複適用者の早期発見に努めています。

また、京丹後市ホームページや広報紙を活用して、国保資格に係る届出の必要性や早期化の周知広報を積極的に努めています。

2 保険税の適正な賦課と収納率の向上

保険税の算定の基礎となる所得については、申告を勧奨することにより所得の把握に努め、被保険者間で負担の公平を欠くことがないように努めています。

21年度の保険税収納率は93.89%（現年度分）であり、口座振替の推進（振替率79.0%）や短期証を活用するなど現年度分の未収金対策を講じています。

また、滞納分については、「京都府地方税機構」に移管することにより、滞納対策を強化しています。

3 レセプト点検の充実

京丹後市では、レセプト点検事務に精通した臨時職員（3名）を直接雇用して、「被保険者資格点検」「請求内容点検」「給付発生原因の把握」「重複・頻回受診の把握」などレセプト到着時の点検及び年4回の縦覧点検を行い、全レセプトの内容点検を行っています。

レセプト点検の結果、第三者行為による求償事務を進めるとともに、医療費の動向や疾病別の把握・分析を行い、健康づくり部門に情報提供を行うこと



京丹後市の特産品
「丹後ちりめん」



冬の味覚の王者
「間人ガニ」



食味ランキング特Aの
丹後米「コシヒカリ」

により健康づくり事業に役立てています。

あわせて、医療費通知を2ヶ月ごとに年6回実施するとともに、22年3月の被保険者証一斉更新時に後発医薬品（ジェネリック医薬品）の普及促進を図るパンフレット同封し、22年9月においても「お願いカード」を配布するなど医療費の適正化に努めています。

4 特定健診・特定保健指導の受診率向上

京丹後市の特定健診については、全て集団検診で実施しています。各種「がん検診」や介護保険の「生活機能評価」をセットした総合検診として、市民に身近な公民館等（22

年度では28会場48日間）に出向き、会場まで来られない方には送迎を行い、かつ全て自己負担無しで実施しています。

検診結果は地区単位で説明会を開催するとともに、市の保健師・管理栄養士による特定保健指導を実施しています。

健康診査・がん検診・生活機能評価を一体的に受検できる総合検診の様子



特定健診の実施状況

年度	対象者	受診者	受診率
20年度	13,880人	5,125人	36.9%
21年度	13,947人	5,392人	38.7%

特定保健指導の実施状況

年度	対象者	受診者	受診率
20年度	動機付け支援	165人	35.3%
	積極的支援	41人	17.4%
21年度	動機付け支援	73人	17.1%
	積極的支援	9人	4.4%

特定健診の実施状況を見てみますと、受診者の固定化が伺われることから、日曜日検診を取り入れたり、22年度においては国保保健指導事業を取り組み、①特定健診・特定保健指導の未受診者対策、②生活習慣病の一次予防のために早期介入事業を実施したところ

です。また、40歳から70歳の被保険者を対象として「人間ドック（自己負担3割）」「節目ドック（自己負担2,000円）」「脳ドック（自己負担3割）」を実施しており、検査結果データは特定健診として活用しています。

人間ドックの実施状況

年度	人間ドック	節目ドック	脳ドック	合計
20年度	118人	121人	147人	386人
21年度	115人	100人	116人	331人

5 健康づくり事業の推進

京丹後市では、地域のなかで市民自らが健康づくりを推進するために、22年度から「健康づくり推進員」を新たに組織化しています。

健康づくり推進員は、おおむね100世帯ごと、あるいは集落ごとを単位として設置するもので、地域から推薦をしていただき市長が委嘱することとしています。市内の健康づくり推進員は、22年6月現在で232人となり、推進員自らが生活習慣病等の学習を行うとともに、総合検診の受診を呼びかけるなど、積極的な活動をすすめているところです。

また、各種健康教室や健康相談を実施するとともに、自動血圧計とスマートフォンを利用して自宅と保健師を電子メールでつなぐ「血圧サポート倶楽部」を開設するなど、新しい形の健康づくり事業を展開しているところです。



健康づくり推進員による
「検診を受けようキャンペーン」



保健師による
脳トレ用リクリエーション